

学校名	江北町立江北中学校		C：やや不十分である D：不十分である	
1 前年度 評価結果の概要	・学校評価保護者アンケートの「お父さんが本校の生徒でよかったと思いますか」では、昨年度より2ポイント増加し94％の保護者が肯定的な回答であった。学校評価生徒アンケートの「あなたは、学校が楽しいですか」では、昨年度より2ポイント増加し86％、「あなたは、学校生活の中で相談できる人(先生、スクールカウンセラーや友達など)いますか」では、昨年度よりポイント減少し77％の生徒が肯定的な回答であった。このことから今年度の学校教育目標に沿った教育活動はおおむね推進できていると考えられる。しかし、「あなたは、学校生活の中で相談できる人(先生、スクールカウンセラーや友達など)いますか」と肯定的に答えている生徒が、昨年度より減少しているので、望ましい人間関係づくりを進めるとともに、スクールカウンセラーの来校を便りて周知するなど相談体制を工夫していく必要がある。 ・学校評価生徒アンケート「先生方は、わかる授業に努めていると思いますか」では、昨年度より4ポイント増加し97％、学校評価保護者アンケート「学校は、わかる授業に努めていると思いますか」でも、昨年度より4ポイント増加し90％であった。12月実施の1、2年生の佐賀県小・中学校学習状況調査では、県の正答率を下回る教科があるものの、昨年度より県の正答率に近くなっていることから、今年度の学力向上へ取組をさらに推進して行きたいと考える。			
2 学校教育目標	自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒の育成			
3 本年度の重点目標	◎基礎学力の定着と「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業の工夫・改善を図る。 ◎生徒指導の三機能を充実させ、自己指導能力の育成を図る。 ◎小学校や家庭・地域と連携した教育実践を図る。 ◎道徳教育及び人権教育を推進・充実させ、心豊かな生徒の育成を図る。 ◎特別支援教育の推進を図る。 ◎業務の適正化を図り、教育効果を上げる。			

4重点取組内容・成果指標

5最終評価

(1)共通評価項目

	重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●学力の向上	○自分の考えをもち、表現できる生徒の育成	○「自分の考えをもち、表現することができた」に肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上。	「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の1時間完結型の授業を実施するとともに、自分の考えをまとめる場を設定する。 ・生徒による授業アンケートを学期に1回実施し、授業改善を行う。	B	・生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に活用した。 ・生徒アンケートで「自分の考えをもつことができた」に肯定的な回答をする生徒の割合は、79%である。また、「小集団の話し合いでは自分の考えを友だちに伝えたり、深めたりすることができた」に肯定的な回答をした生徒は、86%だった。 ・学びの土台となる教室環境を全クラスで統一した。 ・「学びスター」と名付けた自主学習週間を実施した。	B	・小集団学習の話し合いを繰り返せば、自分の意見を出しやすくなると思う。 ・生徒による授業アンケート活用は有効だと思う。 ・UDの導入は勉強になった。 ・授業中のブレインストーミング法を活用した取り組みをしてもいいかもしれない ・「学びスター」の取り組みは一人一人の自信につながって良かったと思う。 ・県の学習状況調査だが、R1から5年間ずっと県の正答率を下回っている。県の正答率までは、学力を引き上げてほしい。
		●児童生徒が、自他の生命を尊重すること、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全職員で道徳教育に取り組み、深い学びにつながる考え、議論する道徳の授業を実施する。 ○道徳の授業参観を年1回以上行う。 ○自他を尊重する態度を称賛する場を設定する。	・人権集会や平和集会を実施する。 ・学年を中心にチーム・ティーチングによる授業を実践し、道徳教材の工夫改善を行う。 ・褒め短歌、帰りの会でのハートタイムの実践及び道徳コーナーの充実を図る。	B	・具体的取組は、ほぼ計画通り実施することができた。 ・道徳の授業については、これまでの取組を継続し、チーム・ティーチングによる授業を計画的に実施した。 ・「いじめや差別を許さず、相手の気持ちを考えて生活しているか」に肯定的な回答をした生徒の割合は、96%だった。 ・自己理解、自己主張、他者理解等を目的とした1分間スピーチのハートタイムを朝の会で実施した。	B	・ハートタイム(1分間スピーチ)は良い取り組みである。 ・自己が安定していることが他者を攻撃しないことにつながるので、自己理解や自己肯定につながる周囲の大人の関わりが大切だと思う。 ・相手の気持ちを考えて日々過ごすことは人間作りの土台だと思う。 ・教師用学校評価アンケートの道徳に関するアンケートで、「あまりそう思わない/そう思わない」の否定的な回答が多い。一部の教師は、道徳教育の意識が低いということだろうか。 ・生徒指導主事を中心とした組織的な対応が機能している。
●心の教育	●心の教育	●いじめの早期発見・早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員80%以上 ○いじめの早期発見・早期対応につなげるアンケートの実施と教育相談の充実を図る。	・いじめの対応についての研修を年間に2回以上行う。 ・学校生活に関するアンケートの実施とSGによる定期的なカウンセリングの実施。	B	・学校生活アンケートは毎月実施して、いじめの早期発見に努めるとともに、各学期ごとに年度当初に出した生徒指導資料を用いた確認や、現在の学校における問題点や変化が必要とされている点についての重要性の認識に取り組んだ。また、改訂された生徒指導要領を活用していくことが大切であることを確認した。 ・「組織的な対応ができていいる」と肯定的な回答をした教員は87%であり、休み時間や昼休み等の臨場指導を含め、生徒指導主事を中心に、組織的対応ができている。また、今後は今まで以上に発達支持の生徒指導に力を入れ取り組んでいくことの重要性を認識していく必要がある。	B	・いじめを根絶し、生徒皆が楽しい学校生活を送れるように、これからもがんばってほしい。 ・中学生となるとなかなか人に話すことのできないう頃頃だと思うので、定期的な生活アンケート、カウンセリングの実施が大切だと思う。 ・不登校問題は、課題と考える。 ・いじめの内容はほとんど同じで変化するので対応が難しいと思う。こどものSOSに気づける周囲(友達、教師、親etc)との関係作りが大切だと思う。
		●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」に回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・職業調べ・職場体験・進学説明会など学年ごとの体験活動を踏まえて職業観や正しい進路選択の意識や態度を養い、進路学習を充実させる。 ・「キャリアパスポート」を活用し、将来の進路について考えさせる機会を設定する。	B	・職業調べ、高校調べ、進学説明会は実施することができた。 ・キャリアパスポートに関しては、行事や学期末ごとにフィリングすることができおり、オーストラリアからの留学生が来校した際の感想も新たに追加した。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした生徒は、91%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は、77%であり、さらなる進路指導の充実が必要である。	B	・他所の学校にはない江北中学校の特色を出して、生徒の夢や希望を叶えやすい教育をお願いしたい。 ・自分の目標をかなえるための高校調べを1年生の時からさせるといいと思う。 ・褒めて伸ばす教育は素晴らしい。善悪についての指導は誰にでもお願いしたい。 ・オーストラリアの学生との交流はとても素晴らしいと思う。 ・廊下に各高校の情報が掲示してあるのはいいことだと思う。職業の選択を増やすために、様々な人と関わる機会を作ってもらえたらと思う。
●健康・体づくり	●健康・体づくり	○教育相談の充実	○「学校生活の中で相談できる人(先生、スクールカウンセラーや友達など)がいる」と肯定的に回答する生徒85%以上	・教育相談週間に年1に2回設定し、全職員で生徒の相談にあたる。 ・毎週教育相談部会を開催し、SCやSSWの助言をもとに生徒の実態に応じた対応ができる体制を整備する。 ・学活ノート等からトラブルを早期に発見する。 ・i-check分析の研修会を実施する。	B	・教育相談週間に年間2回設定した。アンケートの実施、学活ノートの確認、休み時間や昼休みの臨場指導等を通して、トラブルの早期発見・把握に努め、担任等は常に細やかに対応している。 ・気になる生徒の対応については、毎週、教育相談部会を開いて共通理解を図るとともに、SC、SSW、関係機関と連携して進めることができた。 ・生徒アンケートで「学校の中で相談できる人がいる」と回答した生徒の割合は80%と昨年より増えており、「そう思わない」と答えた生徒は5%の割合だった。	B	・全ての生徒が相談しやすい学校作りを引き続きお願いしたい。 ・相談できる人が増えているのはよいと思う。 ・年齢的に大人と距離をとったり自分の考え・気持ちを整理することが難しかったり対応が大変だと思う。先生たちの方から積極的に話を聞きに行っているように感じる。 ・「学校の中に相談できる人」がいる」と回答した割合100%を目指してほしい。
		●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒100%	・生徒会給食部の活動と連携し、「食」の大切さについて考える活動を行う。 ・江北小学校の学校栄養職員と連携を図り、中学2年生に食の授業を実施する。	B	・生徒会給食部で実施した「食」の大切さを考える「給食感謝集会」は、「食」への感謝をテーマに時間を十分確保して実施した。 ・「健康に良い食習慣をしている」と回答した生徒の割合は前項で89%だった。	B	・家庭の連携・協力が必要である。 ・食生活については、継続した取り組みをお願いしたい。給食の残菜が多いと聞いている。問題視する必要があると思う。 ・ペーパーボタンとして初めて給食感謝集会に参加させてもらったが、中学生を相手に食について何を伝えるべきかすごく悩んだ。 ・食の大切さを考える活動・栄養指導の授業など積極的な取り組みがなされていると思う。身につけた食習慣は、一生の体作りにつながる。成果指標100%を目指してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の上限を遵守する。	・3ヶ月ごとの月平均就業時間を60時間にする。 ・定時退勤日や事務処理時間を設定する。 ・ICTを活用した業務の効率化を図る。	C	・学校運営の工夫や会議等の精選、勤務時間、学校施設時刻の可視化に努め、時間外在校時間の削減に努めた。 ・教務主任を中心に「業務改善委員会」を立ち上げ、業務改善に職員全体で取り組む体制を調えた。 ・9～11月までの時間外勤務時間の平均は約53時間で、上限を超えているものの、上半期に比べて時間外勤務時間は削減が進んだ。 ・「あなたは、時間外勤務の上限(月45時間)を理解し、時間外勤務の削減に努めていますか」に対して、肯定的な回答は63%にとどまっており、職員の意識の改革が十分進んでいるとはいえない。	C	・教員自身がまず自分の体調をいってほしい。 ・企業でもそうだが、上が帰らないと下が帰らないという雰囲気があるから、極力そういう雰囲気にならない職場作りが大切だと思う。 ・業務削減のための取り組みの成果が出始めていると思う。 ・様々な生徒たちに細やかな対応をするためにも、できることはどんどんアウトソーシング(外部委託)してほしいと思う。 ・教職員自慢の意識改革は良い事例の模倣が大事だと思う。 ・部活動等の時間外勤務の削減については理解できるが、教師のアンケートで「時間外勤務に努めているか」との問いに「そう思わない」と堂々と回答しているのは違和感がある。「削減に努めなければいけないのです。何開き直っているんですか。」と言いたい。
		●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務改善・教職員の働き方改革の推進	C	・業務改善・教職員の働き方改革の推進	C	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

	重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小・中連携教育	○小・中連携教育	○小学校との連携推進	○小学校との連携が進んだと回答する教師80%以上。	・教務、生徒指導、教育相談、特別支援教育について、小学校との情報共有の場を設定する。 ・義務教育学校についての教職員の理解促進を図る。	B	・中学校の研究授業と小学校のフリー参観デーでの相互の参観などを通して、それぞれの学校における授業への取り組みなどについて理解を進めることができた。 ・令和6年度中学校への進学説明会を今年度は中学校で行い、併せて学校見学を児童及びその保護者に行うことで、保護者への理解を深めた。 ・令和6年度進学予定者で、特別な配慮を要する児童とその保護者に対する小中合同の懇談会を個別に行うことができた。 ・「江北小学校と授業での交流や情報交換などの連携が進んできていると思いますか」についての職員の肯定的な回答は75%である。義務教育学校設置に向けて、さらなる連携が必要であると考え。	B	・これから先、小中一貫教育を目指すとなると、さらに連携していく必要があると考ええる。 ・小中連携して様々な取り組みがなされたと思う。小学校の児童の不安を解消するとともに、保護者も安心できる。4年後の義務教育学校設置に向けて、引き続き取り組みをお願いしたい。
		○特別支援教育の充実	○昨年度より特別支援教育が充実したと回答する教師が80%以上。	・個別の指導計画、教育支援計画の様式を見直すとともに該当する生徒の計画を100%作成する。 ・UDの視点から環境整備を行う。 ・特別支援教育に関する校内研修会を2回実施する。	B	・個別の指導計画、教育支援計画については、該当生徒すべての計画を作成することができた。 ・次年度入級してくる児童について、授業見学や情報共有の場を個別に設定した。 ・外部から講師を招聘し研修会を実施した。また、支援部会等で話し合った「配慮や支援を要する生徒の対応」について、職員への周知を随時行うことができた。「特別支援教育が充実した」と回答した教員は75%であり、数値目標を達成するためにはさらなる取組の工夫が必要である。	B	・医療的な疾病に苦しむ生徒の研修の充実も図ってもらいたい。 ・一人一人の個別のニーズに対応するために、色々と考え工夫することが多いと思う。 ・現代は全員に特別支援教育が必要となるかもと思う。 ・成果指標は達成していないが、具体的な取り組みは確実に実施されている。中学校入学に向けての対応も評価できる。今後更将来を見据えた支援教育をお願いしたい。 ・年々支援を必要とする生徒が増え、この先傾向は変わらないだろう。障害別の教育及び教員の配置ができていくか疑問である。要望があれば、行政との折衝をすべきである。

●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育

5総合評価・次年度への展望

・学校評価保護者アンケートにおいて、「学力の向上」「生命尊重や思いやりの心を育む教育」「いじめについての早期発見」「生徒一人一人への理解」についての学校側の取り組みにおいては、8割以上の保護者が肯定的な回答を寄せていた。このことから今年度の学校教育目標に沿った教育活動はおおむね推進できていると考えられる。一方、家庭学習への取り組みについては生徒、保護者の半数近く、道徳の授業への意欲については4分の1余りの生徒が否定的な回答をい、さらに道徳教育の授業への取り組みについて4分の1余りの教員が「考え、議論する道徳の実践」について否定的な回答をしている。学習への習慣づけの指導や道徳教育へのさらなる取り組みの推進を行う必要がある。

・「時間外業務」への教員の意識について、4割以上の教員が否定的な回答をしており、今一度、教員が「働き方改革」の意義について認識する必要がある。また、コロナ禍の収束を受けて、江北小学校との授業交流や情報交換などの連携を再開したが、連携が進んできたと考える教員は半数にとどまっており、義務教育学校の開校を見据えて、さらなる連携を進めていく必要がある。